

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立小泉小学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童 54名 全学年で実施しました。 (1年 6名) (2年 7名) (3年 10名) (4年 7名) (5年 11名) (6年 13名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 (車いすバスケットボール体験教室) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	○ 車椅子に乗ったり、車椅子バスケットボールに参加したりして、互いの人権を尊重し、こちよ共生社会の実現を目指そうとする態度の育成。 ○ パラリンピアンやその支援者のお話から、自分の自己実現のために積極的に努力する意欲の醸成。
5 取組内容	<p>○ 全校生で、パラリンピック教育資料 (I'm possible) を使って、パラリンピックの意義と歴史を調べました。(9月)</p> <p>○ 校内にパラリンピックコーナーを設置し、共生社会に関心を持たせるとともに、だれにとっても居心地のよい社会の実現のためにどんなことが必要かを考えさせました。(10月)</p> <p>○ 体の不自由な人がどんな生き方、考え方をしているかを体験させるために、「パラリンピック 車いすバスケットボール教室」を開催しました。(1月21日)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>初めて車いすに乗るとい子どもも少なくありませんでした。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>子どもたちにとって、車いすの操作は難しいようです。</p> </div> </div>

	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>車いすに乗ってバスケットボールの試合を行いました。</p> <p>最後はみんなで記念写真を撮りました。</p> <p>車いすバスケット教室を通して、さまざまなことを感じ取りました。</p> <p>○ この事業の後、自分の将来の夢や目標についてもう一度振り返るように話し合いを持ちました。</p>
6 主な成果	<p>○ 車椅子バスケットボールチームアースの選手たちの動きや実際に車いすに乗ることを通して、子どもたちには以下のような変容がみられました。</p> <p>(1) 今の社会において、体の不自由な人が快適に生きるためには何が必要かという問題意識を持つようになりました。健常者にはなにげないことも体の不自由な人にとっては苦勞することもあり、そのために自分は何をしたらよいのかを考える姿がみられました。</p> <p>(2) 選手の方々は事故で体が不自由になっても、バスケットボールがしたいという夢を持ち、車椅子バスケットという形で実現させました。前向きに生きている態度から今までの自分の生き方を反省し、自分も夢をかなえるためにがんばろうという姿がみられました。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○ 特にありません。</p>
8 主な課題等	<p>○ 今年は台風19号による被災で、2学期に行う計画がすべて先送りとなりました。そのため、短い時間の中での事業展開になり、創意工夫をする余裕がありませんでした。次年度は、早い段階から事業を行い、時間にゆとりをもってできるようにしていきたいと思います。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○ 車いすバスケットに限らず、さまざまな障害を抱えていても負けずに、明るく、たくましく生きている方を講師にお招きして、子どもたちに共生社会という考え方、自己実現のために努力しようという態度を身に付けさせたいと思います。</p>